

仙ノ倉北尾根 2015/04/11-12

メンバー：落合（CL）、松村（SL）、平川（食担）

前週は巻機で会山行山スキーだったが、3月は谷川に足繁く通っていたので雪解けが顕著で上越の山々も4月になるとすっかり春の景色に変わっていた。

仙ノ倉山は谷川連峰最高峰であるが、谷川岳の東面・南面のような激しさや厳しさは無く穏やかな山容から雪山の対象としてはやや面白味に欠けると思っていたが、先月登ったタカマガギや足拍子岳から北尾根の雪稜がキレイに見えて興味を抱き、早速出掛けてみることにした。

◆4/11（土）雨のち曇りのち霧雨（山頂付近は雪）

土樽駅 9：50 バッキガ平 11：30 1,550m 幕営地 14：50

前夜は土樽駅の渡り廊下でテントを張りいつものようにSB、6時に起床するも駅舎を叩く強い雨音で二度寝。8時を過ぎても一向に雨は止まず駅で停滞を余儀なくされるが、あまりに快適なのでみんな爆睡モードで起きる気なし、10時前になってようやく雨が止んだので重い腰を上げて行動開始。

車道沿いにはフキノトウ、すっかり春の気配。毛渡沢林道の除雪はちょうど半分くらいまで進んでいて、除雪がキレた所から数名のトレース有。誰もいないと思っていたので少し拍子抜け。どうやら我々がテントでウダウダしていた頃電車で来た人が先行していたようだ。

出発が遅れたのでとりあえず行ける所まで進んで幕営とする、視界が良ければこれから辿る北尾根を一望出来るはずだが雨上がりなので雲も低く視界不良。

尾根の分岐に注意しながら1,300mを超えると冬なら雪稜っぽくなるであろう尾根に出る、雪が完全に落ちてる。。

最初は藪を嫌い巻き気味に登っていたが、次第に傾斜が強くなり巻けなくなる。トレースの無いリッジの雪を崩すイメージ？で藪を掻き分けながら進む。根曲り竹と石楠花のヤブ漕ぎは次第に濃くなり霧雨が降りだし合羽を着てない下半身はビチョビチョ、時既に遅し。風雪の中ラッセル、ではなく雨の中藪漕ぎ。。。。期待は失望に変わることはよくあるが失望も思いがけず期待に変わることもある？

結局は気持ち次第とポジティブに考える。こんな事をやりに来たわけではないがこれはコレで一興。

藪漕ぎビギナーの平川君にはこんな藪漕ぎの内に入らん！と喝を入れる。石楠花の藪漕ぎに筆者はそろそろ沢が恋しくなった。

14時をまわりボチボチ幕営地を決めなければと思っていた所でちょうどヤブを抜け、1,550m付近で幕営。ウエアも濡れて冷えたので熱爛が身体に沁みる。いつものごとくツマミでそこそこお腹が満たされてしまうが、夕飯は平川シェフ特性トマトうどん。夕も朝もトマト尽くしだったが寒い季節は温まる。

森林限界上は風が強いと幕営はキビしい、厳冬期は雪洞を掘った方が良さそうな場所だが上部は逃げ場が無いので風雪時は困難を極めるだろう。天候によってはこの先突っ込むか、守りに入るか判断が難しいところだ。稜線を抜ける場合は悪天に捕まったらリングワンデリング必至だろうか。

イグルーでしっかり固めたので風は特に問題無かったが、夜半まで霧雨が続けていたので朝起きるとテント内は予想通り結露全開でいい感じにかなり濡れました。



除雪途中の毛渡沢林道（左）、森林限界上は終始ホワイト・アウトだった（右）

◆4/12（日）快晴

幕営地 6 : 30 仙ノ倉山 9 : 10 平標山 10 : 40 火打峠 14 : 20 ⇒ 越後湯沢駅 ⇒ 土樽駅



谷川岳（中央奥）から日が昇る、手前に万太郎山が大きい。

雨の中苦勞して登って来ただけに報われる瞬間だ。（左）

シッケイの頭～仙ノ倉山、藪と雪を繋いで山頂を目指す。（右）

上部の藪漕ぎは雪解けて間もない寝た笹藪でたいしたこと無かったが、

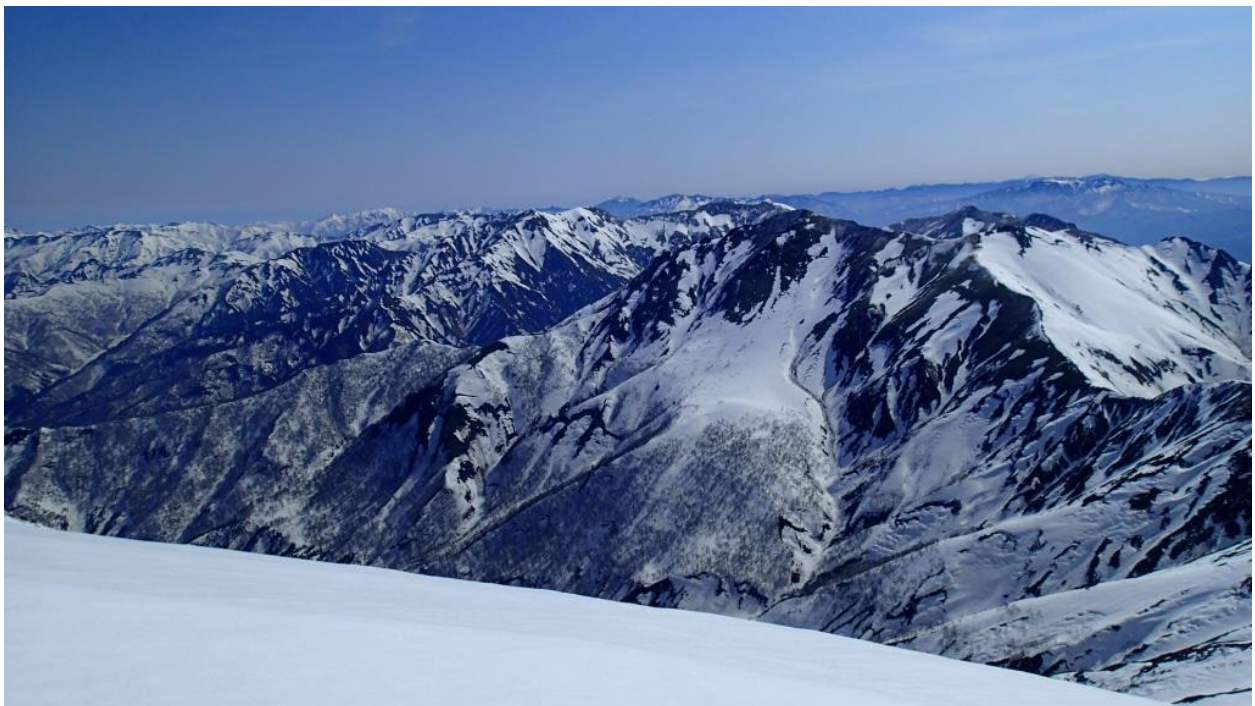
笹藪にもアイゼンがバッチリ効くので比較的快適だった。

朝一からシッケイ沢や西ゼンで雪崩の爆音が響き、沢沿いでは雪解けが進みデブリが多く出ていた。下山後に山スキーに来ていたパーティーと何組か話したが沢沿いはどこも散々だったようだ。



シッケイの頭上部は雪原になっており、雪が付いてこそ谷川最高峰の大きさを実感した。（左）

振り返るとタカマタギ、足拍子岳、巻機山の眺めがいい。（右）



仙ノ倉山から万太郎山～谷川岳に続く上越国境稜線
あわよくば万太郎山（吾策新道経由）で土樽に下山する事も考えていたが、
こちらは次回の課題としておこう。。

下りの選択肢はいくつかあるが、平標新道は長いよね、踏み抜き多いよね、って口実でたまにはバスと電車を繋いで山旅気分を味わおうという事で松手尾根経由で火打峠に下山した。

病み上がりの平川君は今回リハビリ山行であったが、下山で膝がバグってしまい辛そうだったのでのんびり下山。。

越後湯沢駅からは電車で戻る予定だったが、待ち時間が長いのでバス停で同ルートに登って来た岩遊のT会長さんパーティーと居合わせ、乗り合いタクシー割り勘で土樽に戻った。

北尾根は雪稜と呼べる部分は中間部だけだが、雪尾根～雪稜～大雪原と変化に富んだルートなので厳冬の頃は中々の課題だと思う。

今回は明らかにシーズンは過ぎてしまっていたが、また時期を見定めて登ってみたいと思う好ルートだった。

仙ノ倉谷のスラブ群しかり北面は何かと興味が尽きないエリアなので、この先も自ずとお世話になるだろう。。

(記録：落合)